

フレンズにあたたかい
眼差し

川上館長退任

長い間
ありがとうございました

フレンズの皆さんへ

フレンズの皆さん、大変遅くなってしまいました。去る3月末日をもって文化の家の館長を退任しましたことを報告させていただきます。

数年間のつもりで拝受したその席に何倍もの長きにわたって居続けてしまいました。就任時に買い入れた通勤用のビニール靴も、今はこれ見よがしに痛みほころんで象徴的です。

文化の家の14年間は開館時に策定された「マスタープラン」をいかに忠実に現実化するかに終始したといってもいいかも知れません。「フレンズ」はこの先駆的なマスタープランの根幹に属し、その協働の実は早くから全国的な注目を集めていました。そしてこれは今も変わっていません。わたしたちの誇りの最たるものであります。フレンズの、とりわけスタッフの皆さんの、変わらざる



心意気を切に願ひ祈って退任の挨拶とさせていただきます。

長い間、本当にありがとうございました。

平成27年4月

川上 實

川上 前館長の ご退任によせて

フレンズ会長 水野美夕子

フレンズは、文化の家とともに歩みを進めて行く中で、川上館長に見守られていると感じることで、より充実した活動をする事ができ、会として成長してきたと思っております。

フレンズの活動をいつも温かい眼差しで見守っていただけたこと、またその存在を高く評価していただけたことを心からうれしく感謝しております。

川上館長の想いを受け止めこれからもフレンズの心意気を発揮していきたいと思えます。本当に今まで支えていただきありがとうございました。

愛知県警察音楽隊の演奏を楽しみながら

緊張感あふれる「避難訓練コンサート」

3月27日（金） 文化の家 森のホール

3月27日の午後、文化の家森のホールで、コンサート中に大地震が発生したと想定する避難訓練が行われました。

この日は、一般市民約190名が観客として入場し、フレンズスタッフも14名がホールスタッフとして参加しました。

コンサート中の避難訓練は、愛知県警察音楽隊の演奏が繰り広げられている最中、突然すべての照明が消えた会場に、場内放送によって地震発生が告げられ、観客は低い姿勢をとって、身の安全を確保しつつ次の指示を待ちました。

やがて、照明が消えたままの中で舞台を通過して楽屋方向へ避難するよう指示があり、参加者は、係員の指示と誘導に従い楽屋口から建物裏手へ退出しました。

避難が無事に行われたことを確認されると、観客はもう一度森のホールへ戻って、愛知県警担当者や長久手市消防署員から訓練結果の講評、災害発生時の心構えなどの話を聞いた後、あらためて県警音楽隊の素晴らしい演奏を楽しみました。

参加者からは「暗い中でホールを移動するときはドキドキと緊張した」「たくさんの方が誘導してくれたので安心できた」「実際の地震などでは、けが人なども出て大変、そのためにも訓練を重ねることが大切だと思った」などの感想が寄せられました。

こうした実践的な避難訓練は、実際の災害発生に備え、観客をはじめ関係者の対応力を高めたり、会館の構造や設備などをあらためてチェックする大切な機会といえます。



防災や避難訓練の大切さを語る
長久手市消防本部総務課予防担当当時の井上主幹